

すいぞう
膵臓がん治療薬のドラッグラグ解消に関する要望書

特定非営利活動法人パンキャンジャパン
理事長 眞島 喜幸

1) 膵臓がん患者の現状

日本のがん患者は欧米で開発・承認された抗がん剤を使用しています。問題は欧米で開発・承認された抗がん剤が日本で承認あるいは適応拡大されるまでには、未だに大きな時間差(ドラッグ・ラグ)があるのが実情です。膵臓がん患者がドラッグ・ラグ解消を求め、署名活動を行い、厚生労働省に提出し勝ち取ったのがゲムシタビンの承認でした。それから10年たち、膵臓がん患者により、再度署名活動が行われ、承認されたのがエルロチニブでした。しかし、承認されるまでがゲムシタビンで5.1年、エルロチニブで5.7年もかかりました。

他のがんでは10剤くらいの抗がん剤が使えますが、膵臓がんではいまだに使える抗がん剤は、ゲムシタビン、S-1、エルロチニブ、フォルフィリノックスの6剤しかありません。これらの抗がん剤は、症状緩和、延命効果などの効果が認められていますが、治療を続けていくうちに耐性ができて効果がなくなるケースが多く見られます。欧米で標準的に使われる抗がん剤にはゲムシタビン、エルロチニブ、フォルフィリノックスのほか、ゲムシタビンとの併用で使われているナブパクリタキセル、家族性膵臓がん患者に有効と言われているシスプラチン、さらに、腹膜播種などの治療で使われるドセテキセル、カペシタビンなどがあります。これらは多くはジェネリック医薬品で、国内でも他のがんの治療に使用されています。

欧米で膵臓がんの治療に使われていて、国内でも他のがんの治療に使われているにもかかわらず、膵臓がんには適応になっていないため、いまだに使うことができない抗がん剤がたくさんあります。このドラッグ・ラグ(適応外薬問題)を早急に解決し、膵臓がん患者がこれ以上苦しみ続けることのないよう、強く要望いたします。

2) 要望の趣旨

- ・ドラッグ・ラグ(適応外薬問題)を解消し、欧米の標準治療薬の1日でも早い承認をお願いします。

氏名	住所(都道府県から記入・「〃」や「々」等の省略不可)

- ・署名用紙にご記入された方は、郵送またはファックスしてください。〒102-0071 東京都千代田区富士見1-12-1 NPO 法人パンキャンジャパン宛。ファックス: 03-3221-1422
- ・ネット署名もご利用いただけます www.pancan.jp 検索方法: パンキャン 署名運動
- ・中間集約日 平成 26 年 9 月 31 日必着でお願いします。署名は、記載の目的以外には使用しません。